

高等教育における「児童」へのアプローチ — 私立大学児童系学部・学科名称をめぐる一考察 —

Approach to the Child in Higher Education
— Consideration of the Name of the Department and Faculty related to Child Studies
in Private University —

川上雅子

Masako KAWAKAMI

問題意識

学問が成立するには、いわゆる学問の定義や本質を整える内的条件と、当該学問を教育研究する高等教育機関の存在および関連学会等の発足などの外的条件が必要である。すなわち、高等教育機関において学部や学科が創設されることは当該学問の固有の独立を宣言することでもあり、他方、広くその学問の認知を社会に要請するものでもある。近年、大学には今まで以上に建学の精神に基づく大学の理念とその具体的な組織やカリキュラムなどをすべて整合し、他の教育機関との差異性や独自性を明確にすることが求められてきている。拙稿で高等教育機関の中でも特に大学（高専、短期大学、大学院を除く）を取り上げる目的のひとつは、こうした近年の動向から、その背景にある学問の動向を推察するためにある。

平成 3（1991）年に文部科学省（以下、文科省と表す）は大学設置基準の大綱化を図り、以後、大学の個性化・特色化を積極的に進めてきた。しかしながら、近年、多様化したことによって生じてきた学士課程や各分野の教育における最低限の共通性について、文科省は「あるべき姿」を模索すべきとの見解を示した¹⁾。その

方針に基づき、検討の要請を受けた日本学術会議は、大学教育の分野別質保証の在り方について、教育課程編成上の参照基準を策定することを以て回答することになった²⁾。現在では、法学、経営学、統計学、家政学、言語・文学分野などが参照基準の策定を終えている。

参照基準策定の当初の目的は学士力育成を確実にするために、「学ぶこと」の本質的意義を同定し共有し、自主的な教育改善を大学に促すことが目的にあった。しかし、学びの本質を問うことは、同時に学部教育の背景にある学問の固有の特性や世界の認識および世界への関与の仕方を問うことに繋がり、結果として学問の在り方をも問われることになったのである。

冒頭で述べたように、学問と教育というものは明確に分別される世界でありながら、他方連動し相乗しているという一側面がある。その意味では人間や社会の状況を反映し常に動態である学問の形を掴むことは難しいが、その志向の一部は大学における学部や学科の設置において具現するので、これらの状況を捉えることにより学問の変容の一端を知ることが可能となる。

拙稿ではこのような状況を踏まえた上で、児童系学部・学科の動向から、対象への学問的アプローチを推考する。もとより、「児童」に注

目したのは、筆者が以前に家政学部の歴史の変容について論究したことに拠る³⁾。そもそも「児童学科」という名称は家政学部に固有のものであったが、現在、家政学部が在る 16 大学のうち、児童系学科がある 6 大学の学科名称は、「児童学科」5 校、「児童教育学科」1 校である。大学設置の規制緩和後、家政学部の一部は生活科学部へと名称変更したが、名称変更後に従前からの「児童学科」という名称を引き続き用いたのは生活科学部 12 校中わずか 2 校であった。すなわち、生活科学部においては「人間・環境科学講座」や「人間生活学科」「人間福祉学科」などの中に子どもを対象とした専攻やコースが一部にあるものの、その対象の前提となるのはまずは「人間」への理解にあり、「児童」に限定したアプローチが学科名称には表出しなくなったのである。

このように、児童へのアプローチは家政学部と、家政学部から名称変更した家政系新学部では大きく異なっているが、先の拙稿においては家政系学部における状況の変容に限った分析であったため、今回は家政系学部以外の学部にまで視野を広げた。児童へのアプローチは近年多様な展開がみられており、この状況を以てあらためて家政学部および家政学における児童へのアプローチを省察し、その可能性を見出したい。なお、今回の拙稿の標題にある「高等教育」が示すところは大学に限定し、高等専門学校や短期大学、大学院などその教育の最終目的が異なる機関を対象から外した。また、その対象を私立大学に限定したのは、設置基準の緩和後、建学の精神に基づいてその独自性を際立たせるための学部・学科名称の変化が著しいからである。

さらに、拙稿の標題に用いた「児童」「児童系」という概念は、一般に解釈される児童の概念（主として年齢や学齢など）とは異なり、家政学における「児童」領域の解釈をベースにしていることを特筆しておく。前述した日本学術会議による「家政学分野の参照基準」⁴⁾においては、児童領域を「子どもを産み育てることに

関する領域であり、子どもが生まれてから自立するまでの期間のより良い保育の在り方を提案することを目標」とすると記されている。すなわち、家政学における児童領域は「保育」に重点が置かれているのが特徴である。

一般的には、「児童」とは子どものことであり、学校教育法では初等教育期間にあたる満 6 ～ 12 歳までを学齢児童とし、児童福祉法では満 18 歳未満の子どもを指し、児童期とは幼児期と青年期の間を指している⁵⁾。拙稿では、前術したように家政学分野が主として従来から保育の対象としてきた乳幼児期の子どもを対象の中心に据え、その範囲をおおよそ学齢児童にまで広げた対象を「児童」と定めて表現する。また、保育と教育の解釈には重なる部分があるものの、拙稿における学部や学科名称のキーワードとして引用する場合は、上記の理由から明確に分別し追究することにした。

総じて、拙稿では高等教育における学部・学科名称を通して、主として乳幼児を中心とした「児童」がどのように追究されているのかを探り、その背景にある学問の志向について一考を試みたい。

【いわゆる「児童」は、どのような枠組みで学修されているのか】

標記を確かめるための文献として財団法人文教協会が発行する【全国大学一覧】を用いた。上記発行団体は文科省の外郭関連団体であり、かつては文部省高等教育局大学課が監修していた文献である。昭和 24 (1949) 年以後毎年発行されており、大学と大学に関連した施設の一覧（学長名、所在地、学部、学科、専攻名およびそれぞれの設置年度等）と大学に関する統計が掲載されている。一覧の備考欄には、当該大学が学部や学科を設置・改称・廃止等した年度等がすべて記されており、歴史的動向が把握できる。拙稿に示した図表は、筆者が上記文献より適宜抜粋し作成したものであるが、各大学の

HPからもその記述内容を追確認した。

1) 児童系学部の出現と数的推移

先に示したように、学部・学科・専攻の名称はその背景にある学問の存在を反映しているものである。表1は、児童系・教育系学部数の推移である。ここでいう児童系学部とは、その名称に「児童」「こども」「子ども」という要語(キーワードのこと、以下「要語」と表す)が含まれているもの、および「保育」の要語が含まれているものを指す。前述したように、当初、家政学部において設置された児童学科においては、主として乳幼児期の子どもに基軸を置き、学童期や青年期までの子どもへとその対象を拡げてきた経緯がある。そこで、表1では主として学童期と青年期までの子どもを対象とする課程を持つ教育系学部の設置数と比較してみた。これによると戦後の新制大学発足後、主として国立大学に置かれていた教育学部の数は昭和45(1970)年頃まで変化はなかったが、大きな変化を遂げるのは平成3年の大学設置基

準の緩和後10年を経てからである。この間、いわゆる国立大学における教育系学部の設置数は減少し、他方、私立大学における設置が急増する。表1の備考欄に示した学部名称を見ると、従来からの「教育学部」という名称とは異なり、「学校教育学部」「学校教師学部」「人間教育学部」など多様な学部が展開されていることがわかる。

一方の児童系学部も同時期に大きく変化する。平成13(2001)年度に「児童学部」「保育学部」の2学部が誕生したのを皮切りに、おおよそ10年間にその数値は27校となった。教育系学部のこの間の設置数の伸び率と比べると、児童系学部の設置数が際立っていることがわかる。

2) 児童系学部・学科・専攻の設置状況

表2は、「児童」「子ども」「こども」「保育」の要語が、学部名、学科名、専攻名(専修やコース名称は除く)に含まれている大学の名称などを一覧にしたものである(当該要語に●印を付した。▲は女子大学)。

平成24(2012)年度の我が国における大学設置数は771校で、そのうち私立大学は603校であったが、いわゆる児童系学部・学科・専攻が置かれている大学は137校(22.7%)であった。うち、女子大学は39校であったが、現在、全国に74の女子大学があることから、その52.7%に児童系学部あるいは学科や専攻が設置されていることがわかった。

前項で述べたように児童系学部は27校あるが、その他8割弱は人間科学部、教育学部、社会福祉学部、家政学部など多様な学部の下に児童系の関連学科・専攻が設置されていることがわかった。

なお、学科名称から一目で児童系とわかるのは、137校のうちの約9割に上った。しかし、「淑徳大学国際コミュニケーション学部こども教育学科」「浜松大学健康プロデュース学部こども健康学科」「名古屋学芸大学ヒューマンケア学部子どもケア学科」などのように、一見してそ

表1. 児童系・教育系学部数の推移

| | 児童系学部 | | | 教育系学部 | | |
|------------|-------|----|----|-------|----|----|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 国立 | 公立 | 私立 |
| 平成24(2012) | | | 27 | 51 | 2 | 41 |
| 平成23(2011) | | | 27 | 50 | 2 | 37 |
| 平成22(2010) | | | 24 | 50 | 1 | 32 |
| 平成17(2005) | | | 6 | 51 | 0 | 16 |
| 平成12(2000) | | | | 55 | 0 | 14 |
| 平成7(1995) | | | | 56 | 1 | 14 |
| 平成2(1990) | | | | 57 | 1 | 13 |
| 昭和60(1985) | | | | 57 | 1 | 12 |
| 昭和55(1980) | | | | 57 | 1 | 12 |
| 昭和55(1975) | | | | 54 | 1 | 11 |
| 昭和45(1970) | | | | 54 | 1 | 9 |

※ 各年度の「全国大学一覧」(最新の平成24年度版は、発行者・雨宮忠、発行所・財団法人文教協会)を参照し、作成。

※ 昭和45年度から平成22年度までは5年ごと。

※ 児童系とは、学部名に「児童」「こども」「子ども」「保育」などの要語が含まれているもの。(表3参照)

※ 教育系とは、学部名に「教育」の要語が含まれているもの。教育学部の他、文教育学部、学芸学部、学校教育学部、学校教師学部、人間教育学部、教育文化学部、教育福祉学部、文化教育学部、地域教育文化学部、現代教育学部などを含む。

共立女子大学家政学部紀要 第 60 号 (2014)

表 2. 児童系学部・学科・専攻一覧

| | 大学名 (▲は女子大学) | 学部名 (●は児童系) | 学科名 (●は児童系) | 専攻名 (●は児童系) | 入学 定員 | 児童系学部・ 学科・専攻設 置年 | 大学 設置年 | 備考 (前身) |
|----|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------|------------------------|-----------|--------------|
| 1 | 札幌学院 | 人文 | ●こども発達 | | 50 | H18 | S43 | |
| 2 | 札幌国際 | 人文 | 心理 | ●子ども心理 | 50 | H12 | H4 | (静修女子大学) |
| 3 | ▲麗女子 | 人間生活 | ●保育 | | 80 | H3 | S36 | |
| 4 | 北海道文教 | 人間科学 | ●こども発達 | | 80 | H22 | H10 | |
| 5 | 東北女子 | 家政 | ●児童 | | 60 | S45 | S44 | |
| 6 | 盛岡 | 文 | ●児童教育 | | 140 | S56 | S56 | |
| 7 | 尚明学院 | 総合人間科学 | ●子ども | | 80 | H21 | H14 | |
| 8 | ▲仙台白百合女子 | 人間 | 人間発達 | ●子ども発達 | 45 | H7 | H 7 | |
| 9 | 東北福祉 | ●子ども科学 | ●子ども教育 | | 150 | H17 | S37 | |
| 10 | ▲宮城学院女子 | 学芸 | ●児童教育 | | 50 | H19 | S24 | |
| 11 | 東北文教 | 人間科学 | ●子ども教育 | | 90 | H21 | H21 | |
| 12 | 茨城キリスト教 | 文 | ●児童教育 | ●児童教育 | 70 | S57 | S42 | |
| | | | | ●幼児保育 | 70 | | | |
| 13 | 宇都宮共和 | ●子ども生活 | ●子ども生活 | | 100 | H22 | H10 | (那須大学) |
| 14 | 白岡 | 教育 | 発達科学 | ●児童教育 | 180 | H15 | S60 | |
| 15 | 群馬医療福祉 | 社会福祉 | 社会福祉 | ●こども | 40 | H22※ | H13 | ※ 児童福祉専攻から変更 |
| 16 | 東京福祉 | 社会福祉 | ●保育児童 | | 150 | H16 | H11 | |
| 17 | 浦和 | ●こども | ●こども | | 100 | H18 | H14 | |
| 18 | 埼玉学園 | 人間 | ●子ども発達 | | 120 | H17※ | H12 | ※ 幼児発達学科から変更 |
| | | 人間生活 | ●幼児教育 | | 150 | H13 | H 7 | |
| | | | ●児童教育 | | 50 | | | |
| 19 | ▲十文字学園女子 | 人間福祉 | ●児童 | | 100 | H16 | S62 | |
| 20 | 聖学院 | | ●こども心理 | | 80 | H24 | | |
| | | 教育 | ●幼児教育 | | 80 | H2 | S62 | |
| 21 | ▲川科学園女子 | | ●児童教育 | | 40 | | | |
| 22 | 敬愛 | 国際 | ●こども | | 70 | H23 | S41 | |
| 23 | 淑徳 | 国際コミュニケーション | 人間環境 | ●こども教育 | 50 | | S40 | |
| 24 | ▲聖徳 | ●児童 | ●児童 | | 500 | H18 | H 元 | |
| 25 | 東京成徳 | ●子ども | ●子ども | | 140 | H15 | H4 | |
| 26 | ▲大妻女子 | 家政 | ●児童 | ●児童学 | 50 | S42 | S24 | |
| | | | | ●児童教育 | 50 | | | |
| 27 | ▲共立女子 | 家政 | ●児童 | | 100 | H19 | S24 | |
| 28 | こども教育宝仙 | ●こども教育 | ●幼児教育 | | 100 | H20 | H20 | |
| 29 | ▲実践女子 | 生活科学 | 生活文化 | ●幼児保育 | 45 | H19 | S24 | |
| 30 | 白梅学園 | ●子ども | ●子ども | | 135 | H16 | H16 | |
| 31 | ▲白百合女子 | 文 | ●児童文化 | ●児童文学・文化 | 50 | S59 | S40 | |
| 32 | 創白 | 教育 | ●児童教育 | | 100 | S51 | S46 | |
| 33 | 高千穂 | 人間科学 | 人間科学 | ●児童教育 | 20 | H18 | S25 | |
| 34 | 玉川 | 教育 | ●乳幼児発達 | | 240 | H13 | S24 | |
| 35 | 帝京科学 | ●こども | ●こども | | 50 | H19 | H 元 | (西東京科学大学) |
| | | | ●児童教育 | | 200 | | | |
| 36 | 帝京平成 | 現代ライフ | ●児童 | | 100 | H18 | S61 | (帝京技術科学大学) |
| | | 家政 | ●児童 | ●児童学 | 105 | S45 | S24 | |
| 37 | ▲東京家政 | | | ●児童学 | 105 | | | |
| | | | | ●児童学 | 105 | | | |
| | | | ●児童教育 | | 85 | | | |
| 38 | ▲東京家政学院 | 現代生活 | ●児童 | | 80 | H17 | S38 | |
| 39 | ▲東京科心 | 現代文化 | ●こども文化 | | 60 | H16 | H 7 | |
| 40 | 東京都市 | 人間科学 | ●児童 | | 100 | H21 | S24 | (武蔵工業大学) |
| 41 | 東京未来 | ●こども心理 | ●こども心理 | ●こども心理 | 80 | H18 | H18 | |
| | | | | ●こども保育・教育 | 160 | | | |
| 42 | 東洋 | ライフデザイン | 生活支援 | ●子ども支援学 | 100 | H21 | S24 | |
| 43 | ▲日本女子 | 家政 | ●児童 | | 80 | S23 | S23 | |
| 44 | ▲日本女子体育 | 体育 | スポーツ健康 | ●幼児発達学 | 40 | H10 | S40 | |
| 45 | 文京学院 | 人間 | ●児童発達 | | 130 | H14 | H2 | (文京女子大学) |
| 46 | 武蔵野 | 教育 | ●児童教育 | | 150 | H23 | S40 | (武蔵野女子大学) |
| 47 | 目白 | 人間 | ●子ども | | 140 | H19 | H5 | |
| | | | ●児童教育 | | 50 | | | |
| 48 | 立正 | 社会福祉 | ●子ども教育福祉 | | 100 | H7 | S24 | |
| | | ●児童 | ●児童 | | 170 | H13 | S34 | (京浜女子大学) |
| 49 | ▲鎌倉女子 | | ●子ども心理 | | 50 | | | |
| | | 学芸 | ●子ども教育 | | 100 | H19 | S24 | |

高等教育における「児童」へのアプローチ

| | | | | | | | | |
|-----|-------------|-------------|---------------|---------|-----|-----|-----|----------------|
| 51 | 田園慣布学園 | ●子ども未来 | ●子ども未来 | | 100 | H22 | H13 | |
| 52 | ▲東洋英和女学院 | 人間科学 | ●保育子ども | | 100 | H22 | S63 | |
| 53 | 横浜創英 | ●こども教育 | ●幼児教育 | | 80 | H23 | H23 | |
| 54 | 草山国際 | ●子ども育成 | ●子ども育成 | | 80 | H21 | H元 | |
| 55 | 金沢星稜 | 人間科学 | ●こども | | 40 | H18 | S42 | |
| 56 | 北陸学院 | 人間総合 | ●幼児児童教育 | | 70 | H19 | H19 | |
| 57 | 仁愛 | 人間生活 | ●子ども教育 | | 45 | H20 | H12 | |
| 58 | 中部学院 | ●子ども | ●子ども | | 80 | H19 | H8 | |
| 59 | 東海学院 | 人間関係 | ●子ども発達 | | 80 | H18 | S56 | (東海女子大学) |
| 60 | 聖クリストファー | 社会福祉 | ●こども教育福祉 | | 40 | H20 | H9 | (聖クリストファー看護大学) |
| 61 | 浜松 | 健康プロデュース | ●こども健康 | | 60 | H16 | S62 | (常葉学園浜松大学) |
| 62 | 浜松学院 | 現代コミュニケーション | ●子どもコミュニケーション | | 80 | H19 | H15 | |
| 63 | 富士常葉 | ●保育 | ●保育 | | 80 | H17 | H11 | |
| 64 | 愛知学泉 | 家政 | 家政 | ●こどもの生活 | 70 | H20 | S41 | (愛知女子大学) |
| 65 | 愛知淑徳 | 福祉貢献 | 福祉貢献 | ●子ども福祉 | 50 | H22 | S50 | |
| 66 | 愛知東邦 | 人間 | ●子ども発達 | | 50 | H18 | H12 | (東邦学園大学) |
| 67 | ▲桜花学園 | ●保育 | ●保育 | | 145 | H13 | H9 | |
| 68 | ▲金城学院 | 人間科学 | ●現代子ども | | 120 | H13 | S24 | |
| 69 | 至学館 | 健康科学 | ●こども健康・教育 | | 60 | H22 | S38 | (中京女子大学) |
| 70 | 植山女学園 | 教育 | ●子ども発達 | | 160 | H18 | S24 | |
| 71 | 中部 | 現代教育 | ●幼児教育 | | 80 | H19 | S39 | (中部工業大学) |
| | | | ●児童教育 | | 80 | | | |
| 72 | 名古屋学芸 | ヒューマンケア | ●子どもケア | ●子どもケア | 80 | H16 | H13 | |
| | | | | ●幼児保育 | 120 | | | |
| 73 | 名古屋経済 | 人間生活科学 | ●教育保育 | | 100 | H16 | S53 | (市邨学園大学) |
| 74 | 名古屋芸術 | 人間発達 | ●子ども発達 | | 140 | H18 | S45 | |
| 75 | ▲名古屋女子 | 文 | ●児童教育 | ●児童教育学 | 80 | H12 | S39 | |
| | | | | ●幼児保育学 | 120 | | | |
| 76 | 日本福祉 | ●子ども発達 | ●子ども発達 | | 150 | H19 | S32 | |
| 77 | びわこ学院 | 教育福祉 | ●子ども | | 80 | H20 | H20 | |
| 78 | ▲京都女子 | 発達教育 | ●児童 | | 105 | H16 | S24 | |
| 79 | 京都橘 | 人間発達 | ●児童教育 | | 120 | H22 | S42 | (橘女子大学) |
| 80 | ▲同志社女子 | 現代社会 | ●現代子ども | | 100 | H16 | S24 | |
| 81 | 花園 | 社会福祉 | ●児童福祉 | | 80 | H21 | S24 | |
| 82 | ▲平安女学院 | ●子ども | ●子ども | | 90 | H21 | H11 | |
| 83 | 立命館 | 産業社会 | 現代社会 | ●子ども社会 | 60 | H19 | S23 | |
| 84 | 大阪青山 | 健康科学 | ●健康こども | | 80 | H20 | H16 | |
| 85 | ▲大阪和洋女子 | ●児童 | ●児童 | | 150 | H21 | S24 | |
| 86 | 大阪総合保育 | ●児童保育 | ●児童保育 | | 80 | H20 | S17 | |
| 87 | 大阪人間科学 | 人間科学 | ●子ども福祉 | | 120 | H24 | H12 | |
| 88 | 四天王 | 人文社会 | 人間福祉 | ●保育 | 40 | H18 | S42 | (四天王寺女子大学) |
| 89 | ▲千田学園 | 生活科学 | ●児童 | | 80 | H19 | H14 | |
| 90 | 相愛 | 人間発達 | ●子ども発達 | | 100 | H17 | S33 | (相愛女子大学) |
| 91 | 太成学院 | 人間 | ●子ども発達 | | 50 | H24 | H9 | (南大阪大学) |
| 92 | 常盤会学園 | ●国際こども教育 | ●国際こども教育 | | 110 | H23 | H10 | |
| 93 | ▲梅花女子 | ●心理こども | ●こども | | 80 | H22 | S39 | |
| | | | ●こども | | 60 | H14 | H14 | |
| 94 | 東大阪 | | ●アジアこども | | 25 | H23 | | |
| 95 | ブルー学院 | 国際文化 | ●子ども教育 | | 80 | H19 | H7 | |
| 96 | 戸塚 | 臨床教育 | ●児童教育 | | 40 | S48 | S39 | |
| 97 | 関西学院 | 教育 | ●幼児・初等教育 | | 280 | H20 | S23 | |
| 98 | 近大姫路 | 教育 | ●こども未来 | | 80 | H19 | H18 | |
| 99 | ▲甲南女子 | 人間科学 | ●総合子ども | | 120 | H18 | S39 | |
| 100 | ▲神戸海星女子学院 | 現代人間 | ●心理こども | | 50 | H16 | S40 | |
| 101 | ▲神戸松蔭女子学院 | 人間科学 | ●子ども発達 | | 80 | H19 | S41 | |
| 102 | ▲神戸親和女子 | 発達教育 | ●児童教育 | | 195 | H17 | S41 | (親和女子大学) |
| 103 | 神戸常盤 | 教育 | ●こども教育 | | 80 | H23 | H19 | |
| 104 | ▲園田学園女子 | 人間教育 | ●児童教育 | | 115 | H20 | S41 | |
| 105 | 姫路獨逸 | 医療保健 | ●こども保健 | | 50 | H17 | S61 | |
| 106 | 帝塚山 | 現代生活 | ●こども | | 100 | H21 | S39 | |
| 107 | 環太平洋 | 次世代教育 | ●こども発達 | | 80 | H24 | H18 | |
| 108 | 吉備国際 | 心理 | ●子ども発達教育 | | 40 | H23 | H元 | |
| 109 | くらしき作陽 | ●子ども教育 | ●子ども教育 | | 80 | H20 | S41 | (作陽学園大学) |
| 110 | 中国学園 | ●子ども | ●子ども | | 70 | H17 | H13 | |
| 111 | ▲ノートルダム清心女子 | 人間生活 | ●児童 | | 120 | S46 | S24 | |

共立女子大学家政学部紀要 第 60 号 (2014)

| | | | | | | | | |
|------|----------|------|-----------|------|-----|-----|-----|-----------|
| 112 | 製作 | 生活科学 | ●児童 | | 80 | S56 | S42 | (製作女子大学) |
| 113 | 比治山 | 現代文化 | ●子ども発達教育 | | 70 | H21 | H5 | |
| 114 | ▲広島女学院 | 人間生活 | ●幼児教育心理 | | 90 | H19 | H24 | |
| 115 | 広島文化学園 | 学芸 | ●子ども | | 80 | H21 | H6 | (兵大学) |
| 116 | 福山平成 | 福祉健康 | ●こども | | 50 | H20 | H5 | |
| 117 | ▲安田女子 | 教育 | ●児童教育 | | 110 | S49 | S41 | |
| 118 | 東亜 | 人間科学 | ●心理臨床・子ども | | 40 | H24 | S49 | |
| 119 | 梅光学院 | ●子ども | ●子ども未来 | | 80 | H17 | S42 | (梅光女学院大学) |
| 120 | 山口学芸 | 教育 | ●子ども教育 | | 60 | H18 | H18 | |
| 121 | 四国 | 生活科学 | ●児童 | | 100 | H7 | S41 | (四国女子大学) |
| 122 | 徳島文理 | 人間生活 | ●児童 | | 110 | S45 | S41 | (徳島女子大学) |
| 123 | 高松 | 発達科学 | ●子ども発達 | | 70 | H17 | H 7 | |
| 124 | ▲松山東登女子 | 人文科学 | ●心理子ども | ●子ども | 50 | H23 | H3 | |
| 125 | 中村学園 | 教育 | ●児童幼児教育 | | 220 | H23 | S40 | |
| 126 | ▲福岡女学院 | 人間関係 | ●子ども発達 | | 120 | H19 | H 元 | |
| 127 | 西九州 | ●子ども | ●子ども | | 80 | H20 | S43 | (佐賀家政大学) |
| 128 | ▲活水女子 | 健康生活 | ●子ども | | 50 | H15 | S56 | |
| 129 | 長崎純心 | 人文 | ●児童保育 | | 80 | H14 | H5 | |
| 130 | 九州ルーテル学院 | 人文 | 人文 | ●こども | 40 | H19 | H8 | |
| 131 | 日本学園 | 社会福祉 | ●子ども家庭福祉 | | 80 | H18 | S29 | (日本福祉大学) |
| 132 | 平成音楽 | 音楽 | ●こども | | 30 | H16 | H12 | |
| 133 | 九州保健福祉 | 社会福祉 | ●子ども保育福祉 | | 50 | H19 | H10 | |
| 134 | 南九州 | 人間発達 | ●子ども教育 | | 80 | H21 | S42 | |
| 135 | 鹿児島国際 | 福祉社会 | ●児童 | | 120 | H12 | S35 | (鹿児島経済大学) |
| 136 | ▲鹿児島純心女子 | 国際人間 | ●こども | | 45 | H13 | H6 | |
| 137 | 沖縄 | 人文 | ●こども文化 | | 50 | H19 | S49 | |
| ●の合計 | | 27 | 132 | 28 | | | | |

※ 「平成 24 年度全国大学一覽」発行者・雨宮忠、発行所・財団法人文教協会、平成 24 年 から抜粋、作成。
 ※ 平成 24 年度大学数 771 (国立 86、公立 82、私立 603；学生募集を停止している大学及び放送大学を除く。)

の学部名称からは、児童系学科が設置されているとは思われない大学もあった。

また、専攻名に至って初めて児童系専攻があるとわかる大学も 14 校あった。「日本女子体育大学体育学部スポーツ健康学科幼児教育学専攻」「立命館大学産業社会学部現代社会学科子ども社会専攻」「九州ルーテル大学人文学部人文学科子ども専攻」などはその例であり、児童を学修する多様なアプローチがあることがわかる。

なお、137 校中 88.4%の大学における学科設置数は 1 であったが、川村学園女子大学（幼児教育学科、児童教育学科）、東京家政大学（児童学科、児童教育学科）中部大学（幼児教育学科、児童教育学科）の 3 校においては 1 学部に 2 学科が設置されていた。同様に茨城キリスト教大学（児童教育専攻、幼児保育専攻）や大妻女子大学（児童学専攻、児童教育専攻）などのように 1 学科に児童系の 2 専攻以上を持つ大学は 7 校あった。

入学定員の平均は 92.1 人で、設置申請上の

最大定員は、聖徳大学の 1 学部 1 学科（5 コース）で 500 人、最小は高千穂大学の 1 専攻での 20 名であった。また、88.3%が平成以後に設置されており、前項で述べたように大学設置基準の緩和が契機となっているとみられる。

しかし、これに因らない大学がある。すなわち家政系学部のある東北女子大学、大妻女子大学、東京家政大学、ノートルダム清心女子大学、安田女子大学などである。概ね昭和 40 年代に児童系学科が設置されているが、なかでも昭和 23 (1948) 年度に設置された日本女子大学家政学部児童学科は、国立のお茶の水女子大学（昭和 24 年度設置）と並び、家政学部児童学科の祖である。その前身である日本女子大学校、東京女子高等師範学校時代から育児保育専攻があり、新制大学発足後においては「児童学」の教育研究の創始となった。

前項の表 1 では児童系学部として独立してきた推移を見たが、家政学部の児童学科とは異なる児童へのアプローチが学科・専攻レベルではそれ以上に多様であることがわかる。

表 3. 児童系学部名称の要語別設置年度の推移

| | | 平成 13 年度 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
|---------|------|----------|-----|-----|----|-----|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 学部名称の要語 | 児童 | 児童▲ | | | | | 児童▲ | | | 児童▲ | | |
| | 児童系 | | | | | | 児童保育 | | | | | |
| | こども | | こども | | | | こども | こども | | | | |
| | こども系 | | | | | | こども心理 | | こども教育 | | 心理こども▲ | こども教育 |
| | 子ども | | | 子ども | | 子ども | | 子ども | 子ども | 子ども▲ | | |
| | 子ども系 | | | | | 子ども | | 子ども | | | | |
| | 子ども系 | | | | | | 子ども科学 | 子ども発達 | 子ども教育 | 子ども育成 | 子ども未来 | 子ども生活 |
| | 保育 | 保育▲ | | | | | 保育 | | | | | |

※ 全 27 校 (▲は女子大学)

3) 児童系学部の名称

すでに述べたように児童系学部は 27 校あるが、平成 13 年度に鎌倉女子大学に「児童学部」が、そして桜花学園大学に「保育学部」が初めて児童系学部として設置された。

鎌倉女子大学（前身は京浜女子大学）は家政学部をもって創設され、そこに設置されていた児童学科が後にそれぞれ児童学部、教育学部として独立への過程を辿ることになった。なお、家政学部には家政保健学科と管理栄養学科のみが現在もあり、こうした経緯を踏まえると当大学においては家政・教育・児童それぞれの差異性を際立たせる学部名称が独立の際には必要不可欠だったと思われる。

他方の桜花学園大学保育学部は、現在学芸学部（英語学科）とともに設置されており、大学開学後 3 年で独立学部として保育学部を創設した。保育学部として独立するまで児童系学科はなかったが、保育科を有する名古屋短期大学を併設している。

表 3 は児童系学部の要語（児童・こども・子ども・保育）別設置年度の推移を示したものである。先に述べたように、平成 13 年度に「児童学部」「保育学部」が設置されて以後、14 年度に東大阪大学に「こども学部」、15 年度に東京成徳大学に「子ども学部」が設置された。平成 18（2006）年度には、児童・こども・子どもという要語に「保育」「心理」「科学」など新

たな要語を付した学部名称が現れる。こども・子どもの要語に「教育」「育成」を付した「こども教育学部」「国際こども教育学部」「子ども育成学部」などが 5 校、こどもという要語に「心理」を付した「こども心理学部」「心理こども学部」が 2 校、その他「発達」「科学」「生活」「未来」を付した名称が各 1 校あった。

これらの学部名称を系統に分別したところ、その 48% に「子ども」の要語が用いられ、続いて「こども」30%、「児童」15%であった。（図 1）

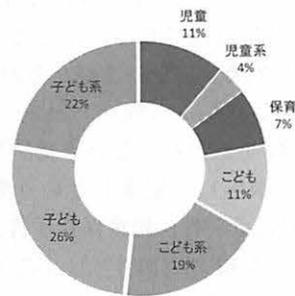


図 1. 児童系学部名称の要語による割合

なお、これら 27 学部の保育士資格、幼稚園教諭および小学校教諭（1 種）免許の取得状況については、「保育士・幼稚園・小学校教諭」の資格・免許すべてが取得可能なのが 15 学部、「保育士・幼稚園教諭のみ」が 7 学部、「コースにより 3 種が可能」が 5 学部であった。児

児童系学部においては、保育士資格の取得がいわゆる教育系学部との差異化における 1 つの特徴である。

4) 児童系学科の名称

児童系学部がある 137 大学のうち、「児童」「こども」「こども」「保育」「幼児・乳幼児」の要語が含まれている学科の設置数は 132 であった。(表 2) なお、学部名称の段階では「幼児・乳幼児」という要語は見られなかったが、学科名称には「幼児教育学科」「乳幼児発達学科」などとしてこれらの要語が用いられているため、分類対象として特出した。

表 4 はこれらの要語を含んだ学科名称の要語別設置年度の推移である。先に述べたように昭和 23 年度に設置された日本女子大学家政学部児童学科が祖であり、その後、平成になるまで児童学科は概ね家政学部に設置されてきた。しかし、設置基準が緩和された平成 3 (1991) 年度に、従来の家政学部児童学科とは異なる「幼児教育学科」「保育学科」などが登場し、平成 7 (1995) 年度に「子ども学科」、平成 13 (2001) 年度に「こども学科」が設置された。平成 13 年度以後 19 (2007) 年度にかけて、児童系要語を学科名に付す大学は急増し、19 年度には新たに 20 校に設置されるに至った。その後の新設数は年々減少しているが、その総数は 132 学科となっている。

現在では、「子ども」という要語を含む学科が 48 校 (36.4%)、「児童」という要語を含む学科 (幼児児童学科、児童保育学科、保育児童学科含む) は 42 校 (31.8%)、「こども」という要語を含む学科は 27 校 (20.5%) となっている。前項と比べると、「児童」という要語を含む学科名称は 3 割あり、「児童」はなおも新たに設置される名称の要語として、連続と用いられていることがわかる。

5) 児童系学部・学科名称にみる領域分布

表 5 は、表 2 に示した児童系学部・学科・専攻の名称に因る分別を一覧にしたものである。左側に A) 児童・児童系の学部・学科・専

表 4. 児童系学科名称に見る要語とその設置年度の推移

(枚)

| | 昭和 23 | ~ | 42 | ~ | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | ~ | 56 | 57 | 58 | 59 | ~ | 平成 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | ~ | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 要語別合計 |
|-------|-------|---|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|---|------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-------|
| 児童 | 1 | | 1 | | 4 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | | | 2 | 1 | | 1 | | 1 | | | | 1 | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 6 | 1 | 3 | 1 | 1 | | 39 |
| 児童幼児 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 幼児児童 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 乳幼児 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 幼児初等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 幼児 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| こども | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| 子ども | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 27 |
| 保育 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 48 |
| 児童保育 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 保育児童 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 教育保育 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 保育こども | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 学科数合計 | 1 | | 1 | | 4 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | | | 2 | 1 | | 1 | | 3 | | | | | 2 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 6 | 1 | 3 | 1 | 1 | | | 132 |

高等教育における「児童」へのアプローチ

表 5. 児童系名称が付されている学部・学科・専攻別領域分類一覧

A) 児童・児童系名称

| 学部 | 領域・分野 | 学部名 | 設置数 | 学科名 | 設置数 | 専攻名 | 設置数 |
|---------|----------|---------|--------------|----------|-------|----------|-----|
| 児童・児童系 | 児童・児童系 | 児童 | 3 | 児童 | 19 | 児童学 | 2 |
| | | 児童保育 | 1 | 児童保育 | 2 | 児童教育 | 4 |
| | | | | 保育児童 | 1 | 児童教育学 | 1 |
| | | | | 児童教育 | 17 | 児童文学・文化 | 1 |
| | | | | 児童発達 | 1 | | |
| | | | | 児童福祉 | 1 | | |
| | | | 児童文化 | 1 | | | |
| | こども・こども系 | こども | 3 | こども | 10 | こども | 2 |
| | | こども教育 | 2 | こども教育 | 1 | こどもの生活 | 1 |
| | | 国際こども教育 | 1 | 国際こども教育 | 1 | こども保育・教育 | 1 |
| | | こども心理 | 1 | こども教育福祉 | 1 | こども教育 | 1 |
| | | 心理こども | 1 | こども発達 | 3 | こども心理 | 1 |
| | | | | こども心理 | 2 | | |
| | | | | 心理こども | 1 | | |
| | | | | こども保健 | 1 | | |
| | | | | こども健康 | 1 | | |
| | | | | 健康こども | 1 | | |
| | | | | こども健康・教育 | 1 | | |
| | | | こども文化 | 2 | | | |
| | | | こども未来 | 1 | | | |
| | | | アジアこども | 1 | | | |
| | こども・子ども系 | 子ども | 7 | 子ども | 11 | 子ども | 1 |
| | | 子ども生活 | 1 | 総合子ども | 1 | 子ども発達 | 1 |
| | | 子ども教育 | 1 | 現代子ども | 2 | 子ども心理 | 1 |
| | | 子ども育成 | 1 | 保育子ども | 1 | 子どもケア | 1 |
| | | 子ども発達 | 1 | 子ども生活 | 1 | 子ども福祉 | 1 |
| | | 子ども科学 | 1 | 子ども教育 | 8 | 子ども支援学 | 1 |
| 子ども未来 | | 1 | 子ども育成 | 1 | 子ども社会 | 1 | |
| | | | 子ども発達 | 11 | | | |
| | | | 子ども発達教育 | 2 | | | |
| | | | 心理子ども | 1 | | | |
| | | | 心理臨床・子ども | 1 | | | |
| | | | 子ども福祉 | 1 | | | |
| | | | 子ども教育福祉 | 1 | | | |
| | | | 子ども家庭福祉 | 1 | | | |
| | | | 子ども保育福祉 | 1 | | | |
| | | | 子どもケア | 1 | | | |
| | | | 子どもコミュニケーション | 1 | | | |
| | | 子ども未来 | 2 | | | | |
| 幼児・乳幼児系 | | | 乳幼児発達 | 1 | | | |
| | | | 幼児教育 | 5 | 幼児保育 | 3 | |
| | | | 幼児児童教育 | 1 | 幼児保育学 | 1 | |
| | | | 児童幼児教育 | 1 | 幼児発達学 | 1 | |
| | | | 幼児・初等教育 | 1 | | | |
| | | | 幼児教育心理 | 1 | | | |
| 保育・育児系 | 保育 | 2 | 保育 | 3 | 保育 | 1 | |
| | | | 教育保育 | 1 | | | |
| | | | | 育児支援 | 1 | | |

B) 非児童・児童系名称

| 学部 | 領域・分野 | 学部名 | 設置数 | 学科名 | 設置数 | |
|----------|-------------|------|-----|--------|------|---|
| 人間・人間科学系 | 人間 | | 1 | 人間発達 | 1 | |
| | 現代人間 | | 1 | 人間科学 | 1 | |
| | 国際人間 | | 1 | 人間福祉 | 1 | |
| | 人間総合 | | 1 | 人間環境 | 1 | |
| | 人間生活 | | 5 | | | |
| | 人間教育 | | 1 | | | |
| | 人間発達 | | 4 | | | |
| | 人間科学 | | 11 | | | |
| | 総合人間科学 | | 1 | | | |
| | 人間生活科学 | | 1 | | | |
| 教育・教育系 | 人間福祉 | | 1 | | | |
| | 教育 | | 12 | | | |
| | 現代教育 | | 1 | | | |
| | 臨床教育 | | 1 | | | |
| | 発達教育 | | 2 | | | |
| | 次世代教育 | | 1 | | | |
| | 教育福祉 | | 1 | | | |
| 人文・文学系 | 人文 | | 5 | 人文 | 1 | |
| | 人文社会 | | 1 | | | |
| | 人文科学 | | 1 | | | |
| | 文 | | 4 | | | |
| 非児童・児童系 | 学芸 | | 3 | | | |
| | 現代生活 | | 2 | | | |
| | 現代ライフ | | 1 | | | |
| | ライフデザイン | | 1 | | | |
| | 生活科学 | | 4 | | | |
| | 家政 | | 6 | 家政 | 1 | |
| | 福祉系 | 社会福祉 | | 7 | 社会福祉 | 1 |
| | | 福祉社会 | | 1 | 福祉貢献 | 1 |
| | | 福祉貢献 | | 1 | 生活支援 | 1 |
| | | 福祉健康 | | 1 | | |
| ヒューマンケア | | | 1 | | | |
| 健康・医療系 | 医療保健 | | 1 | | | |
| | 健康生活 | | 1 | | | |
| | 健康科学 | | 2 | | | |
| 国際・文化系 | 健康プロデュース | | 1 | | | |
| | 現代文化 | | 2 | 生活文化 | 1 | |
| | 国際文化 | | 1 | | | |
| 発達・心理系 | 国際 | | 1 | | | |
| | 発達科学 | | 1 | 発達科学 | 1 | |
| 人間関係系 | 心理 | | 1 | 心理 | 1 | |
| | 人間関係 | | 2 | | | |
| | 現代コミュニケーション | | 1 | | | |
| 社会系 | 国際コミュニケーション | | 1 | | | |
| | 現代社会 | | 1 | 現代社会 | 1 | |
| 体育系 | 産業社会 | | 1 | | | |
| | 体育 | | 1 | スポーツ健康 | 1 | |
| 音楽系 | 音楽 | | 1 | | | |

※137大学(表2)より作成。

攻の名称を示し、右側には、児童系の学科・専攻はあるものの、A)の要語を含まないものをB)非児童・児童系の学部・学科として、その名称を示した。すなわち、左側のA)は、児童・こども・子ども・乳幼児・保育という要語が名称に表出している一覧である。また、右側のB)

の一覧においては、人間・教育・人文・福祉・健康・文化などの要語を基軸として、それらが含まれている名称を機械的に分別し、領域・分野項目ごとに「人間・人間科学系」「教育・教育系」などと命名したものである。その限りでこの領域・分野名は既存の学問の一領域・専門

分野に厳密に則したものではない。

しかし、参考までに、表 5 の領域・分野に関して「家政学の参照基準」では、「保育、教育、児童発達、児童臨床、児童福祉、児童文化、家庭教育などに関する学科目が設定され、…隣接または基礎となる学問分野としては、医学(産科学、小児医学、小児保健学ほか)、教育学、心理学、社会学、人間関係学、脳科学、体育、文学、芸術(音楽、美術など)広範にわたっている」⁶⁾と記されている。試みにこれに照らしてみると、表 5 にみられる領域・分野において、とりわけ医学系のアプローチは、「健康」という要語の限りで学科・専攻名称からは十分みることはできないが、他については、おおよそ上記内容を網羅していると言える。

なお、「人間・人間科学系」にある「人間発達学部」は、下方にある「発達・心理系」に置いてもよく、また、「人間福祉学部」も「福祉系」に入れてもよい。問題はどこに視座が置かれ、またどのような学修方法を取るのかであり、それらを象徴するようないくつかの要語を併合した名称がしばしば用いられていることである。翻って、このことは児童学や子ども学、人間学というような総称では示し得ない、対象の一部を特化し細分して具体的に名称に反映しているということであり、まさに対象へのアプローチが細分化しつつ、多岐にわたっているということでもある。

さらに、この分類一覧においてしばしば見られるのが「造語」である。「心理こども(学部)」「子ども未来(学部)」「健康こども(学科)」などの名称はニュアンスとしては通じるかもしれないが、通常日本語では用いない言葉であり、背景となる学問・専門分野がその名称で実際に存在し、社会的な認知がなされているのか定かではない。

ところで、大学評価・学位授与機構は、平成 21(2009)年度に学位に付記する専攻分野の名称を調査している⁷⁾が、その一覧には、「学士(児童学)」や「学士(子ども学)」などの他に、上

記の「健康子ども」のような不自然な造語も「学士(健康子ども学)」として存在していることがわかった。

この学位に付記する専攻名称についてはその在り方を含めて分野の捉え方に検討が加えられることが日本学術会議に求められている⁸⁾が、本来なら、各大学が学部名称や学科名称を設置する場面において十分に吟味されるべきものであろう。

結語

冒頭の問題意識を引き受けると、「児童」へのアプローチは多様であったというだけでは済まされない、ひとつの大きな変化の流れを経て、ここにきて新たな分岐にあり、その課題が提示されていると思われる。

児童系学部としての独立化のスピードもさることながら、児童系学科・専攻の名称からは乱立・雑多とも言える世界がみえる。このことはその背景にある学問の総合化や分化などによる新しい分野の創造過程ともとれるが、しかし、異なった分野の要語を結合した限りの、違和感のある造語が無造作に学部・学科・専攻名称に用いられていることも事実である。前出した「健康子ども(学科)」や「心理こども(学部)」などは、その代表である。後者は「心理」「こども」という 2 つの要語を併合した上、「こども心理」とはいわず、「心理」を強調した形で冒頭に置き「心理こども」と表している。もっとも、「こども心理」ということばは従来からの「児童心理」の転用でもあろう。よって、この一連の変節を考えると、私たちはこれもひとつの過程として受けとめるべきなのだろうか。

このように、新しい名称を際立たせようとするがあまりに、無節操な名称が増加しており、その背景にある学問的系統性が問われるといえよう。前節で例示した「健康こども学」もすでに学士に付加する専攻名称として認められているが、児童系の学問は学部・学科名称の多様化とともに、さらに際限なく新たな専門分野が創

られ細分化していく現況にある。

なお、日本学術会議の「学位に付記する専攻分野の名称の在り方検討分科会」は、平成24(2012)年の報告書において、その専攻分野の種類が平成17(2005)年度時点で約580に達するとし、「その名称の約6割は、専ら当該大学のみで用いられているとして、この過度に細分化された状態が、真に学問の発展に即したもののなのか、学生の学習成果を表現するものとして適切なのか、能力の証明としての学位の国際的通用性を阻害するおそれはないのか、懸念を持たざるを得ない状況」と記している。そして、具体的な改善策として「類例がなく定着していない名称は避けるように努め、仮にそれを用いる場合、依拠・関連する既存の学問領域との関係について説明責任を果たすようにする。」との見解を示している。

学部・学科名称はいわば看板であり、学生募集の御旗でもある。しかし、同時に学問への扉でもあり、学統を破壊して良いはずはない。報告書に「6割の学位は当該大学でのみ用いられている」という独りよがりの名称付記の実態が記されているが、このことは拙稿で調査した学科・専攻名称に通じるものがあり、たんに「多様性」と称して看過することはできない。学問とその系譜に重大な責任を伴うものであることの認識が必要である。

では「児童学部」「こども学部」「子ども学部」にはいわゆる児童の各分野を総合化して捉える要素が揃っているといえるのであろうか。家政学部児童系学科に照らして考えると、前述した日本学術会議による「家政学分野の参照基準」に示された児童学領域における隣接あるいは基礎学問としてあげられている教育学、心理学、人間関係学などは資格・免許取得の関連から重視される位置にあるが、真に子どもの身近な日常生活について言及する領域がないのが、先の表5からもわかる。

「こども(学部・学科)」「子ども(学部・学科)」という総合的な名称が新設されているのも、大

人からの保育・教育対象として児童をみるのではなく、子どもそのものを追究する志向の反映である。しかし、子どもそのものを抜き出して対象とする学問は成立するのであろうか。また、心理学や医学の見地からのみで、子どもそのものを総体として捉えることが可能であろうか。いずれにせよ、学修の場面では、対象を総体化しつつ、根源的にとらえる作業が少なくとも不可欠である。

他方、現在の児童へのアプローチにおいては、子どもをとりまく環境としての家庭や身近な生活環境について、衣食住などの具体的な日常生活から追究する視点を多く見るができなかった。これは、本来ならば家政学分野が負えるものであるが、家政学がその役割を十分に果たせていないといえる。

家政学は他の学問との協働性が強く、ともするとそのオリジナルな視座を意識せずに対象に向かうことができてしまう。家政学部が生活科学部へ名称変更をした際に、児童学科が他の領域と複合化され、独自領域となりえなかった一因はここにもあろう。すなわち、家政学における児童学のオリジナリティが十分ではなかったことが、その後の児童をとりまく新たな学部・学科の設置などの今日の状況を招いた一因ともいえる。

このように拙論は最後に家政学自身の問題性に戻ってきたが、それは我が国における児童学科の祖が家政学部にあったことによる。多様化する児童系学部およびその背景にある学問の系譜において、改めて家政学はオリジナルな見解を示しうる状況にあるのか、自らに問うほかない。

超少子高齢社会といわれているのにもかかわらず、高齢者とは異なり、子どもは学究の対象となるライフステージ上の特異な存在である。子どもの保育・教育に関係する学部や学科が増加しているのは、その対象に対する社会の関心や課題が山積しているからであり、課題へのアプローチの方法を社会から求められているので

ある。

拙論では、学部・学科の人材養成目的やカリキュラムなどには言及せず、その名称のみを分析対象としたが、今後は、児童系の学部・学科の実態を把握し確認する必要性があると切に考える。

文 献

- 1) 中央教育審議会：答申 学士課程教育の構築に向けて (平成 20)
- 2) 日本学術会議 大学の分野別質保証の在り方検討委員会：分野別の教育課程編成上の参照基準の策定について (基本的な考え方) (平成 21)
- 3) 川上雅子：「生活者」とは何か－共立女子大学家政学部の理念としての一考察－、共立女子大学家政学部紀要、58、61-73 (平成 24)
- 4) 日本学術会議 健康・生活科学委員会家政学分野の参照基準検討分科会：報告 大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 家政学分野 (平成 25)
- 5) 財団法人新村出記念財団「広辞苑 第六版 DVD-ROM 版」岩波書店 (平成 20)
- 6) 4) と同じ。
- 7) 大学評価・学位授与機構：学位に付記する専攻分野の名称調査 (平成 21)
- 8) 2) と同じ。